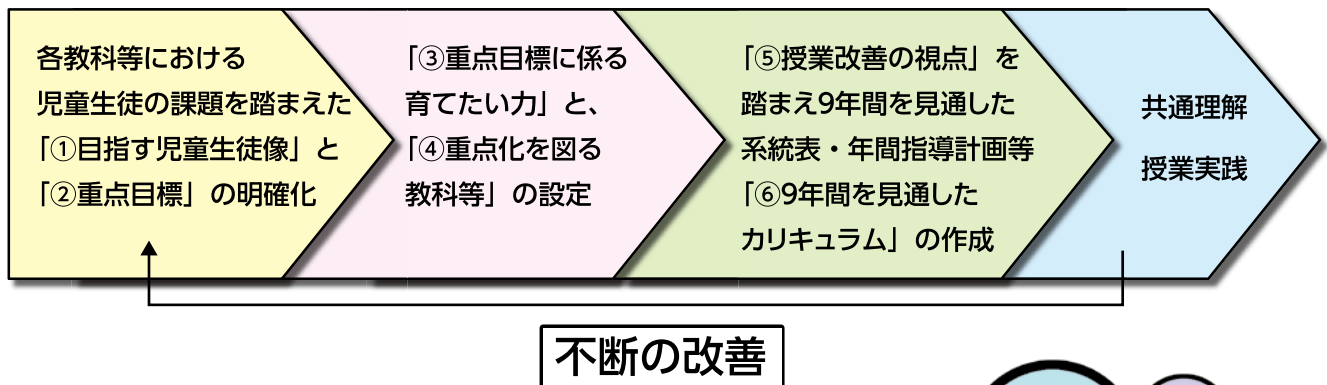


V 9年間を見通したカリキュラムを編成する

9年間を見通したカリキュラムとは、各中学校区で設定した「目指す児童生徒像」の実現のために、小・中学校9年間を見通して作成された目標や方針を含めた教育計画全体を指します。

構成する内容は、「目指す児童生徒像」「重点目標」「重点目標に係る育てたい力」「授業改善の視点を踏まえた全体計画・系統表・年間指導計画」「指導や評価をつなぐ方法」「小・中学校教員によるチームティーチング、交流授業の実施計画」等が考えられます。

1 編成手順



2 編成上の留意点

全体に関わること

- 重点目標の実現を目指した系統性のある学習にする。
- 発達の段階を意識し、学習のねらいを明確化する。
- 小・中学校が相互に指導目標や学習内容を理解する。

学習内容をつなぐ

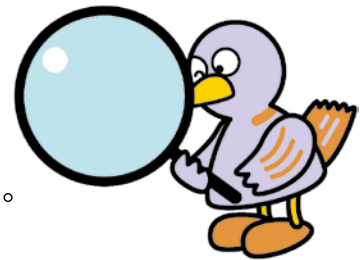
- 配慮事項(学習内容・活動の重複やレベルの逆転等)
- 重点や軽減を図る内容(配当時数の増減等を含む)
- 系統表の工夫
(「学習内容」だけでなく、「育てたい力」「授業改善のポイント」等)

指導方法をつなぐ

- 単元(題材)の導入の工夫(既習内容の扱い)
- 学習の順序の統一
- 共通した教材、問題の活用
- 指導方法等の共有
(「めあて」づくり、学び方指導、発問、思考力・判断力・表現力育成を重視した協働活動、板書づくり、ノート指導等)

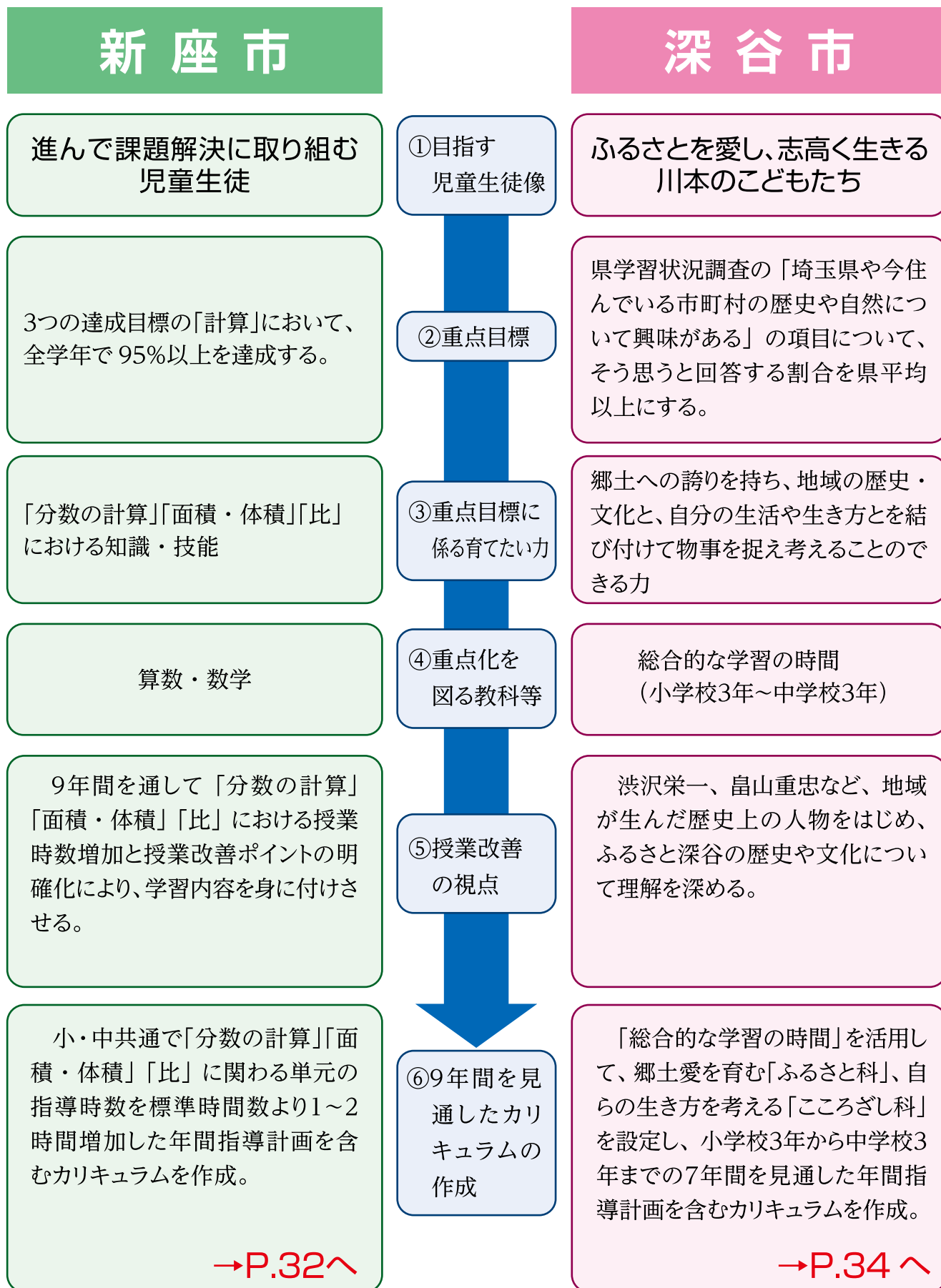
評価方法をつなぐ

- 評価の観点、評価規準の共通理解
- 評価方法等の共有(観察、対話、ノート、ワークシート、作品、レポート、学習カード、ペーパーテスト、質問紙、面接、自己評価・相互評価等)



3 カリキュラム例

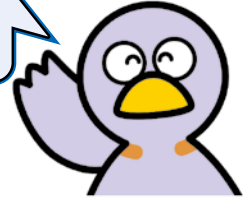
(1) 編成の考え方



(2) 算数・数学の例

○ 指導の重点に係る内容の系統表と授業改善のポイント

「分数の計算」「面積・体積」「比」のうち、ここでは「面積・体積」を例示します。



算数・数学科 指導の重点

★は単元の指導にかかる配当時数増

◎は配当時数減

新座市立第三中学校区 小中一貫教育 学力向上部

No. 1

	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
「面積・体積」に係る学習内容	長さ・面積・体積 A ①②③	長さの単位と測定 B ①②③	長さ・重さの単位と測定 A ①②	★ 面積 A ①②③	★ 平行四辺形の面積	楕円とおよその面積	平面図形 B ①	基本的な平面図形と平行線の性質	図形の相似
	時刻の読み方 B ①②④	体積の単位と測定 A ①②③	単位や計器の選択	◎ 角 B ①②③	★ 体積 A ①②③	★ 円の体積 A ①②③	空間図形 A ②	図形の合同 A ①② ③④	円周角と中心
		時間の単位	時刻と時間 B ①		◎ 測定値の平均	★ 角柱・円柱の体積 A ①②③		小学6年「比」から	
標準時数	136	175	175	175	175	175	140	105	140

授業改善のポイント

① 教材教具	A ・紙テープ ・デジタル教材 B ・時計の模型	A ・家から容器の持参 ・牛乳パック ・色水の活用 B ・デジタル教科書	A ・巻尺 ・デジタル教科書 B ・ストップウォッチ ・デジタル教科書	A ・1mの横道紙 ・1m, 1cmの正方形 ・デジタル教科書 B ・デジタル教科書	A ・1m, 1cmの立方体 ・立体的実物 ・デジタル教科書	A ・方眼 ・デジタル教科書 B ・立体的実物 ・デジタル教科書	B ・デジタル教科書の活用	A ・図形の合同・極カード ・三角形の内角の和説明器 ・平行四辺形のなかま説明器
② 算数的活動	A ・紙テープを使って長さを計る(間接比較) B ・5とびお数の唱和	A ・量を量らせる ・日常使うL, mLを見つけてさせる B ・身の回りの実測	A ・教室のものや校庭のものを測定	A ・1mを作る およその面積を考える B ・およその角度を考える	A ・展開図の作成 ・1cmの立方体を使った操作活動 ・1mの体感	A ・円を分割し等積変形させる活動 B ・直方体を等積変形させる活動	A ・正多面体の作成	A ・コンピュータの活用(図形の証明)
③ 言語活動	A ・調べた長さを伝えあう活動	A ・調べた水の量を伝えあう活動 B ・調べた長さを伝えあう活動		A ・面積の求め方説明 B ・角度の測り方説明	A ・求積の方法を説明 ・直方体の高さや体積の関係を説明	A ・求積の方法を説明 ・公式の導き方説明 B ・求積の方法を説明 ・公式の導き方説明		A ・n角の内角の和・外角の和を求める活動
④ その他	B ・デジタル時計が多くなったのでアナログで時間の量をとらえさせる							A ・授業のはじめに計算テスト
課題	A ・間接比較の体感	AB ・単位の変換		A ・複雑な形の求積 ・単位の変換	A ・複雑な形の求積 ・1mの量感指導 ・計算力	AB ・思考・説明する力 ・複合図形の求積(平面・立体) ・計算	A ・準備と作業の手順の簡素化 作業スピードの差 B ・教材の動作確認	A ・視覚的な確認説明 ・基本的な計算

上の系統表にある単元を指導する際の、授業改善のポイントの概要を一覧にして示します。

○ 授業改善のポイント（詳細版）

授業改善のポイントの詳細について示します。



算数・数学科 授業改善のポイント

【小学6年】

No. 1

単元名	円の面積の求め方を考えよう	4月実施
①教材教具	・デジタル教科書や模型を用いて、円を平行四辺形→長方形に変形していく過程を確認し、面積公式につなげる。方眼紙を活用する。	
②算数的活動	・円を分割し、等積変形させる活動を行う。	
③言語活動	・求積の方法をペアやグループ、全体に説明する活動。 ・公式の導き方をペアやグループで説明する活動。	
④その他		
成果	・公式を既に暗記している児童も、「なぜそうなるのか」理解することができる。	
課題	・その場ではよく理解できた児童も、練習問題をこなすうちに、どうしてこの公式で求められるのかを忘れていってしまう。思考したり、説明したりする力に結びつかない。 ・複合図形の面積を求める際、工夫して分けて求積する等の力をつけること。 ・計算力の向上を図ること。（計算間違いをしないように）	

単元名	分数のかけ算を考えよう(分数×分数の意味と計算)	5月実施
①教材教具	・デジタル教科書の活用。特に導入時と計算のしくみを自己解決する場面において、教科書中の図を拡大し、児童同士で説明しあう機会を取り入れ、考え方を共有する。	
②算数的活動	・面積図や数直線を用いた乗法計算の意味を確認する活動。	
③言語活動	・自分が書いた数直線を用いて、隣の人に立式のしかたや考え方を説明する場を設定する。	
④その他		
成果	・考え方を話し合わせる活動によって、立式がスムーズにできる。 ・繰り返し練習することで、約分の仕方が定着できる。	
課題	・時間が経つと計算の仕方を忘れてしまうため、継続的な練習が必要である。 ・既習事項(約分)をきちんと定着して、指導に臨むこと。	

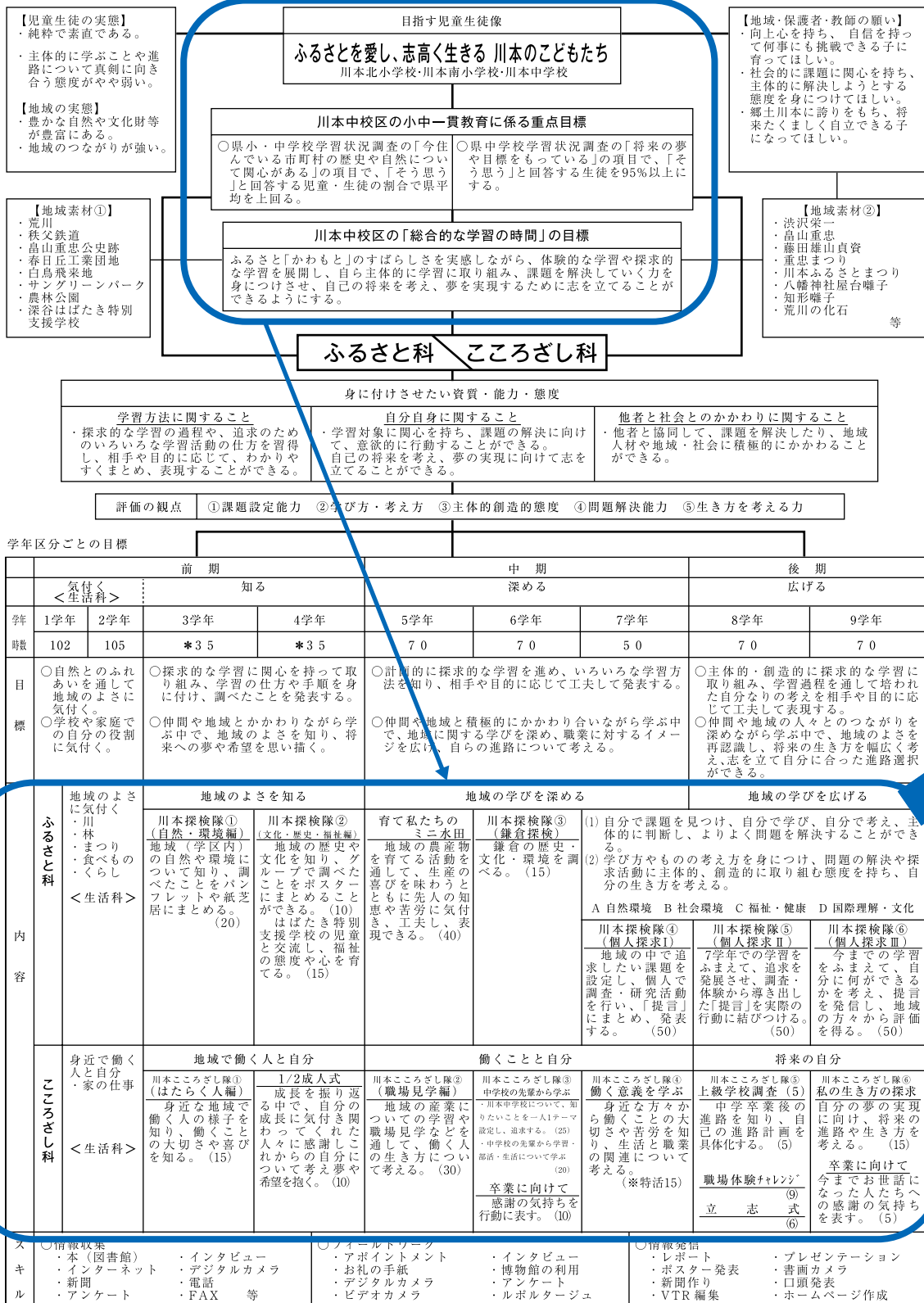
単元名	分数のわり算を考えよう (分数÷分数の意味と計算、分数倍、小数との混合計算)	6月実施
①教材教具	・デジタル教材の数直線を効果的に活用し、分数の除法の仕方について理解を図る。	
②算数的活動	・面積図や数直線を用いた除法計算の意味を確認する活動。	
③言語活動	・真分数÷真分数の計算の仕方を既習事項を想起させ、互いの考えを話し合わせる。	
④その他		
成果	・視覚的な教材を活用することで、児童が学習に興味をもち、意欲が高まる。	
課題	・自身の考えを相手にうまく伝えられない児童や、一人で解決できない児童への対応。 ・既習事項(約分)をきちんと定着して、指導に臨むこと。	

(3) 「総合的な学習の時間」の例

○ 全体計画

重点目標を生かした内容を設定し、系統表を作成します。

小中一貫教育カリキュラム 「総合的な学習の時間（せせらぎタイム）」全体計画 深谷市立川本中学校区



第2章 埼玉県が考える小中一貫教育

○ 年間指導計画

各学年の年間指導計画を作成します

小中一貫教育の視点を明確にします

総合的な学習の時間 後期 8年生

週2時間 (年間50)

指導上のキーワード	○ふるさと科とところざし科 ・体験的、探求的な学習		・相手や目的に応じた発表の仕方		自らの生き方	
月	科	内容	時数	小中一貫教育の視点(▽これまで、△これから)等		
<せせらぎタイム～自らの課題を探究しよう> 自然、社会、福祉・健康、国際理解、文化(50時間)						
4	ふるさと科・せせらぎタイム	1 オリエンテーション	2	▽川本探検隊(3、4、6年)		
5		★川本南北小学校3、4、6年の「川本探検隊①～③」と7年の学習を振り返る	2	▽育て私たちのミニ水田(5年)		
6		2 自らの課題を見つけテーマを考える	2	▽川本探検隊・個人探究I(7年)		
7		3 テーマと仮説を設定する	2	■ブレインストーミング、ウエビング		
8		4 課題解決の手だてを考える	2	■文献、インターネット、新聞等		
9		5 調べ方の実習 公共機関の利用方法、情報機器の使い方、情報収集の仕方	4	■インタビュー、観察実験、施設見学、アンケート、メモの取り方		
10		6 調査・体験活動の具体的な内容や方法を立案・計画する	2	■デジカメ・ビデオ・ICレコーダー等の使い方、アポイントメントの取り方		
11		7 1日調査・体験活動を行う	6	■フィールドワーク、体験活動、観察・実験、聞き取り、ボランティア等		
12		8 調査体験、フィールドワーク等で収集した情報を整理する	2	■ファイリング、グラフ、地図、統計		
1		9 中間報告会を行う	2	■資料の提示方法(模造紙、OHP)、発表の役割分担		
2		10 仮説の見直しをする	4	■レポートのまとめ方		
3		11 調査結果を整理する	4	▽情報を選び効果的に伝えるには～レポートの形式～(7年国語)		
4		12 レポートの形式、図や表などの活用 留意事項等について学ぶ	2	▽事実と意見を区別して話す～わかりやすく報告する(7年国語)		
5		13 活動の成果をレポートにまとめる	4	■プレゼンテーション、討論		
6		14 提言のための資料作成、提言の仕方等を学ぶ	2	■提言リーフレット、手紙の書き方		
7		15 分野別発表会を行い提言する	2	■自己評価、相互評価		
8		16 発表会の反省				
9		17 代表による全校発表会を行う				
10	18 学習のまとめと反省					
<自らの生き方を考え、地域社会から学ぼう> ～夢と志を語る「立志式」に向けて～(20時間)						
5	ところざし科	1 オリエンテーション	1	▽洗濯機一から学ぶ(3年)		
6		★3年「洗濯機一」や4年「1/2成人式」の学習を振り返る	2	▽1/2成人式<働く人から学ぶ>(4年)		
7		2 働くことと学ぶこと ・働くことの意義を考えよう	2	△夢に向かってチャレンジ(9年)		
8		3 職業の内容と特色 ・職業の分類をしよう ・職業の内容を調べよう	2	■インタビュー取材の方法(インタビューの技術やコツ)		
9		① 立志式に向けて(1) ・「座右の銘」の紹介、はんこ作り	2	■文献、インターネット		
10		4 社会体験チャレンジにむけて ・職場体験の意義や目的 ・職場体験の個人目標を考える	2	▽わたしと家族(7年技術・家庭科)		
11		5 社会体験チャレンジ ・3日間の職場体験	2	■文献、発表、話し合い		
12		6 職場体験のまとめと発表	2	■アポイントメントの取り方(手紙、電話、メール、FAX、直接会う)		
1		② 立志式に向けて(2) ・「座右の銘」の決定、紹介	2	■記録、デジカメ、ビデオ		
2		7 学ぶための制度と機会 ・上級学校について学ぶ	2	▽生き方いろいろ、人生十人十色(7年特別活動)		
3		8 自分について考える ・自分の適正、特色をまとめよう	2	■文献、発表、話し合い		
4		9 進路選択を考えよう ・自分の将来と進路選択	2	■文献、インターネット等		
5		③ 立志式を行う ・立志式を行い、決意を発表する	1	○14歳の挑戦PART I(8年)		
6		2	■発表			

★・・・小中一貫つなぎ教材 ■・・・スキル

